

## \* 麻酔科スタッフのご紹介 \*



院長 麻酔科主任部長  
新見 能成 (にいみ よしなり)

- 専門分野
- ・麻酔科全般
- ・心臓麻痺
- ・体外循環
- ・軽食道心エコー
- 専門医認定/資格など
- ・日本麻酔学会指導医
- ・日本麻酔学会代議員
- ・厚生労働省麻酔科標榜医
- ・日本心臓血管麻酔学会理事

麻酔科診療部長  
赤嶺 斉 (あかみね ひとし)

- 専門分野
- ・麻酔科全般
- 専門医認定/資格など
- ・日本麻酔学会認定医・専門医
- ・厚生労働省麻酔科標榜医
- ・厚生労働省臨床研修指導医講習会修了

麻酔科医長  
稲村 実穂子 (いなむら みほこ)

- 専門分野
- ・麻酔科全般
- 専門医認定/資格など
- ・日本麻酔学会認定医・専門医
- ・厚生労働省麻酔科標榜医
- ・日本医師会認定産業医
- ・日本集中治療医学会ICDインフェクションコントロールドクター
- ・JBPOT軽食道心エコー認定医
- ・日本心臓血管麻酔学会専門医暫定認定医
- ・厚生労働省臨床研修指導養成ワークショップ修了

片桐 美和子 (かたぎり みわこ)

- 専門分野
- ・麻酔科全般
- 専門医認定/資格など
- ・日本麻酔学会認定医・専門医
- ・厚生労働省麻酔科標榜医

三刀 由美 (みとう ゆみ)

- 専門分野
- ・麻酔科全般
- 専門医認定/資格など
- ・日本麻酔学会認定医・専門医
- ・厚生労働省麻酔科標榜医
- ・厚生労働省がん診療に携わる医師に対する緩和研修会修了

澤田 憲一郎 (さわだ けんいちろう)

- 専門分野
- ・麻酔科全般
- 専門医認定/資格など
- ・日本麻酔学会認定医・専門医
- ・厚生労働省麻酔科標榜医

宮崎 紗衣子 (みやざき さえこ)

- 専門分野
- ・麻酔科全般
- 専門医認定/資格など
- ・日本麻酔学会認定医・専門医
- ・厚生労働省麻酔科標榜医

津内 由紀子 (つうち ゆきこ)

- 専門分野
- ・麻酔科全般

向井 祐香 (むかい ゆうか)

- 専門分野
- ・麻酔科全般

佐藤 綾美 (さとう あやみ)

- 専門分野
- ・麻酔科全般

## IMSグループからのお知らせ

### 医療・介護のことでお悩みはありませんか？

IMSグループイムス総合サービスセンターが、みなさまからの医療・介護のご相談をお受けいたします。詳しくはホームページをご覧ください。

来訪もしくは、お電話かホームページ〔メールフォーム〕よりお問い合わせください。

**0800-800-1632** (代表) **03-3989-1141** (代表)

※「050」からはじまるIP電話および国際電話からはご利用いただけません。 受付時間/平日8:30~17:30 土曜日8:30~12:30 (日祝・年末年始休み)

イムス総合サービスセンターのサービス内容や、IMSグループの最新情報をご覧ください。

<http://www.ims.gr.jp/gscenter/>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-21-11 オーク池袋ビルディング8F

板橋中央総合病院 地域広報誌  
PLAZA IMS (プラザイムス) Vol.50 新年号  
発行: 板橋中央総合病院 企画広報室  
発行日: 2018年1月

IMS(イムス)グループ 医療法人社団 明野会  
**板橋中央総合病院**  
〒174-0051 東京都板橋区小豆沢2-12-7  
TEL.03(3967)1181

— 理念 —  
**安全で最適な医療を提供し、  
「愛し愛される病院」として社会に貢献する。**

— 基本方針 —

1. 急性期病院として1人でも多くの患者さまのニーズに応えるために全力を尽くす。
2. 他の組織や施設と密接に連携してシームレスな医療を構築し、地域のニーズに応える。
3. 接遇マナーとコミュニケーション能力を備えた職員を尊重し、かつ育成する。



「プラザイムス」は、患者さま、ご家族のみなさまに院内やIMSグループの医療活動、病気に関する情報をお伝えするコミュニケーションペーパーです。

## 新年のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。  
板橋中央総合病院は今年も地域の皆様の健康を全力で守ります。地域医療連携室が病院の窓口として最高のフットワークを活かし、経営企画部門が一体となり、施設間の医療連携訪問、公開講座、休日の人間ドック、お迎えサービスなどを企画担当して、地域に顔の見える医療を提供してまいります。ちょっとでも体調に不安を感じたときにはいつでも当院へご相談ください。

当院の強みは、救急診療と総合診療、そしてそこから振り分けられる専門診療科の急性期医療がバランスをとって機能していることです。とくに高齢化が進む日本では、総合診療の充実が鍵と考えていますが、当院では総合診療科部長の加藤副院長、内科統括部長の塚本院長補佐、呼吸器病センター長の栗屋部長といった大ベテランがタッグを組んで、総合診療の機能を最高の水準に整えています。救急診療の実績も抜群です。内科系も外科系も3次救急に近い超重症患者の救急搬送を毎日受け入れ、その件数も年間9000台と過去最高を見込んでおります。救急・総合診療の充実した当院は医療の未来を担う初期研修医にも大人気で、全国屈指の臨床研修病院として多くの研修希望者を集めています。大ベテランと高倍率を乗り越えた初期研修医が溶け合っ、病院全体が熱気を放っている。それが板橋中央総合病院です。

高齢者の医療は、急性期病院だけでは完結しません。板橋中央総合病院はIMSグループ内における医療連携を生かし、回復期、慢性期まで一貫したサービスを提供できます。また病気の治療はもちろんのこと、病気の予防にも積極的に取り組んでいきます。今年も皆様の健康の回復と維持に一意専心いたしますので、安心してご利用いただきますようお願い申し上げます。



にいみ よしなり  
院長 新見 能成



# 麻酔科の役割と活動実績



## ● 麻酔って何? ●

ほんの200年前、まだ全身麻酔のない時代に1番多い手術は足の開放骨折に対する下肢切断術でした。麻酔がない時代は、切断するしか方法がなかったのです。数人がかりで患者さんを押さえこんで、力ずくで足を切断したのですが、10分以内に終わらなければどんな屈強な人でも死んでしまったのです。

このように、手術が生体に与える侵襲はとて大きいのですが、現在では眠っている間に手術が終わります。麻酔科医は、患者さんが手術中にまったく痛みを感じないようにし、術後の痛みもいろいろな方法で抑えるように努力します。



### 周術期における麻酔科医の役割

- ◎ 痛みをとる
- ◎ 眠らせる
- ◎ 動かないようにする
- ◎ 血圧を調整する
- ◎ 呼吸を管理する
- ◎ 有害な反射を抑制する
- ◎ 生体のストレスを緩和する
- ◎ 周術期の合併症を予防する
- ◎ 周術期の回復を早める

通常、全身麻酔中は呼吸が止まり血圧が低下するため、麻酔科がこれを維持しなければ、手術から生還することはできません。また、徐脈、目心臓反射、腸間膜牽引症候群などの有害反射を抑制する必要もあります。これらの要素が1つでも欠けると、患者さんの安全や手術の進行に影響を与えてしまいます。そのため、患者さんが麻酔を受けている間、我々麻酔科医は血圧計、心電図、酸素モニター等の各種モニターを監視し、血液のデータを得ながら絶えず患者さんの安全を見守っています。

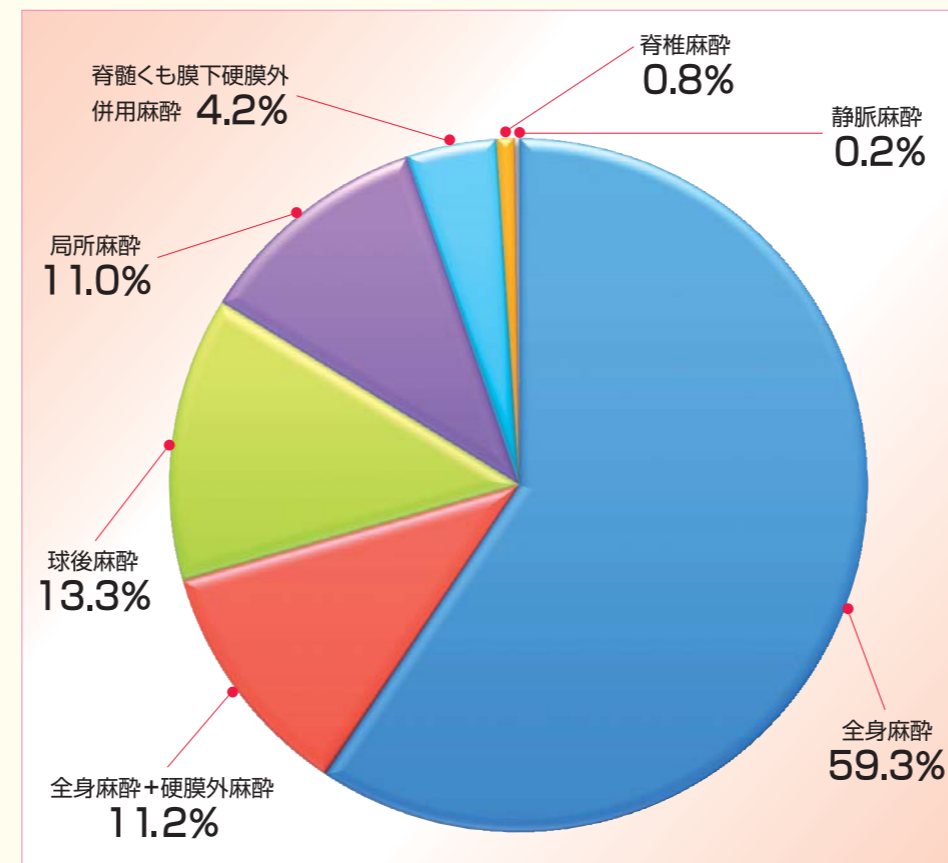
## ● 板中麻酔科の特徴 ●

### 手術件数

通常は手術室7室で運営していますが、緊急手術などの申し込みがある際は8室で対応しています。平成28年の年

間総手術件数は4638件でした。その内、全身麻酔が3272件、脊椎硬膜外麻酔が194件、脊椎麻酔が37件となっています。ここ10年で見ると60件/年の割合で増加しています。

### 麻酔別手術割合



### 経食道心エコー (TEE)

麻酔中に口腔から食道にプローブを挿入し心臓を観察することができるため、手術中でもリアルタイムに心機能を評価できます。特に心臓手術や重症心合併症の患者さんで使われ、心機能の異常を他のどのモニタリングよりも早く確認することができます。また、心臓手術では手術の方針に影響を与えることもあります。TEEに修熟することで、より安全に麻酔を行うことができるため、当科では週に2回ほど勉強会を行っています。その成果として、上級スタッフはTEEの資格試験に合格しています。



### 麻酔科研修プログラム

現在本邦では、専門医の質を高めるために、診療科ごとに要件を満たした病院でのみ後期研修プログラムの運用が認められています。当院の麻酔科研修プログラムは、いくつかの点で希少なプログラムとして注目されています。当院

プログラムの連携施設では小児麻酔、3次救急、心臓大血管麻酔をさらに深く研修できるのが特徴です。また、専攻医全員が同じ施設で研修できる体制のため、各専攻医で研修内容に差が出ないのも特徴の一つです。研修を終えた専攻医は全員専門医試験に合格しています。(詳しくは麻酔科ホームページへ)

麻酔科のURLは以下のものとなります  
<http://ims.gr.jp/ims-itabashi/anesthesiology/index.php>



## ● 手術室以外の業務 ●

### 救急外来(ER)

麻酔科研修の一環としてERでの診療を行っています。状態の悪い重症患者さんでは、呼吸、循環の維持がもっとも重要です。当院の救急科は標榜してから間もないのですが、そのルーツは麻酔科にあります。



### グループ病院への麻酔支援

日本全国で麻酔科の不足が言われていますが、IMSグループの病院も例外ではありません。当院でも以前は麻酔科医が不足している時期もありましたが、研修プログラム開始後は徐々に人数が増えていき、現在では麻酔支援が行えるまでになりました。今まで、北海道、宮城県、群馬県、埼玉県、千葉県、23区内の病院で麻酔支援を行いました。

## ③ コラム

### おなかの手術で硬膜外麻酔を勧められたら!

硬膜外麻酔は、手術中、術後の鎮痛目的に行われ、全身麻酔または脊椎麻酔と併用します。脊髄を取り巻いている硬膜の外側(硬膜外腔)に細いカテーテルを留置し、そこから局所麻酔薬を投与します。それにより、必要な部分にだけ鎮痛効果を得ることが出来ます。術後の痛みをとるうえで、ほかのどの方法よりも有効です。ただし、術前から血液が固まりにくくなる薬を内服していると、術後に硬膜外血腫ができて麻痺が発生することがあります。こうした患者さんでは、硬膜外麻酔を施行することができません。